

宮農だより

金沢営農協議会
J A 金沢中央
石川県農業共済組合

斑点米カメムシ類の防除対策

カメムシ発生数過去10年間で最多!!

① カメムシ調査結果（田んぼ周辺）と防除

令和2年度カメムシ類雑草地調査結果(調査地点平均) 1地点あたり平均頭数

年次	トゲシラホシカメムシ	コバネヒョウタンナガカメムシ他	ホソハリカメムシ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	アカスジカスミカメ	クモヘリ他	合計
R2年	1.27	0.13	0.66	4.20	3.17	0.59	10.01
R元年	0.72	0.05	0.45	5.74	0.73	0.88	8.57
過去10年平均	0.51	0.03	0.18	3.40	1.37	0.30	5.79

いずれの種類のカメムシも平年より多く、特にトゲシラホシカメムシ、カスミカメムシが多くなっています。

シラホシカメムシ類、飛翔性カメムシ類の本田侵入盛期(予想、普通期移植の場合)

	7月														8月																					
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14						
ゆめみづほ	出穂				飛翔性カメムシ類の侵入盛期																															
コシヒカリ																出穂	シラホシカメムシ類の侵入盛期																			
																		飛翔性カメムシ類の侵入盛期																		
																		シラホシカメムシ類の侵入盛期																		

いずれの品種も出穂7~10日後に防除を実施し、その一週間後にも防除を行う。
※防除の方法や薬剤は、宮農だより第5号を参照ください。

② 斑点米カメムシ類の特徴

カメムシ調査捕獲 ベスト3

1位  実物大
アカヒゲホソミドリカスミカメ

アカヒゲホソミドリカスミカメ
飛翔性カメムシで、体色は緑、触角が淡紅色。稲の出穂に反応して水田に侵入、粉を吸汁加害する。

3位  実物大
トゲシラホシカメムシ

トゲシラホシカメムシ
歩行性カメムシで、体色は淡褐色で黒点特徴。8月上旬に稲穂に集まって加害する。

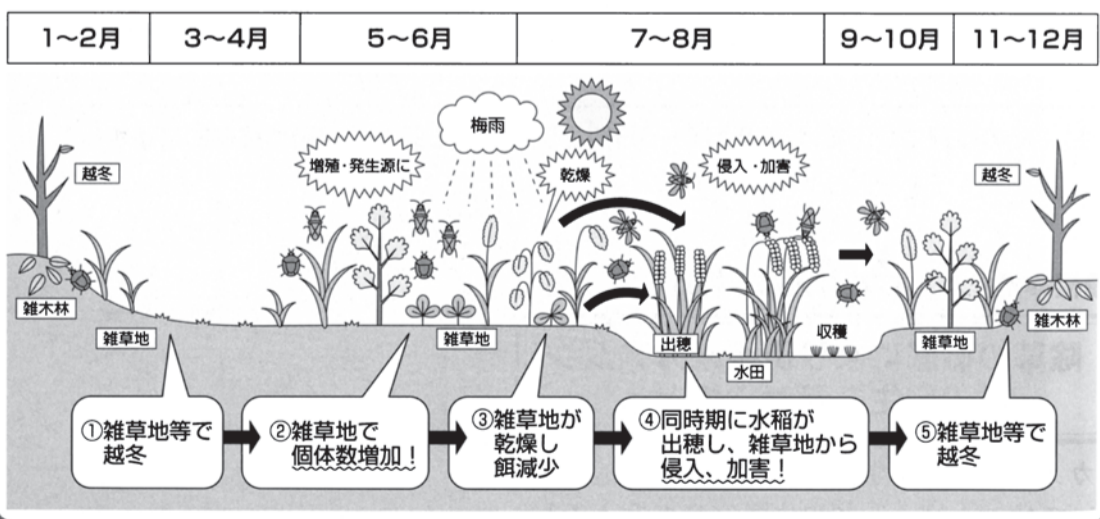
2位  実物大
アカスジカスミカメ

アカスジカスミカメ
飛翔性カメムシで、体は黄緑色で橙赤色の縦条が特徴。稲穂の割れ粉が発生すると吸汁加害する。

急増!

ホソハリ
大型の飛翔性カメムシで生育期間が長い為、晩植栽培や晩性品種が集中加害を受けやすい。

斑点米カメムシ類の生活史



斑点米

着色粒による検査規格(目安)

2粒~3粒(1,000粒中)混入 ⇒ 2等
4粒~7粒(1,000粒中)混入 ⇒ 3等
8粒以上(1,000粒中)混入 ⇒ 規格外



カメムシ類は、一般的に植物の種子を吸汁しながら、雑草地や水田等を移動しています。稲の穂が出ていない7月上旬頃までは、雑草地に生息して数を増やし、稲の出穂期以降は水田へ侵入して斑点米を発生させます。

今後は、胴割粒、乳白粒や褐色粒の発生防止に向け、登熟期間の飽水管理と適期収穫でどんな天候にも対応できる稲作管理に努めましょう！

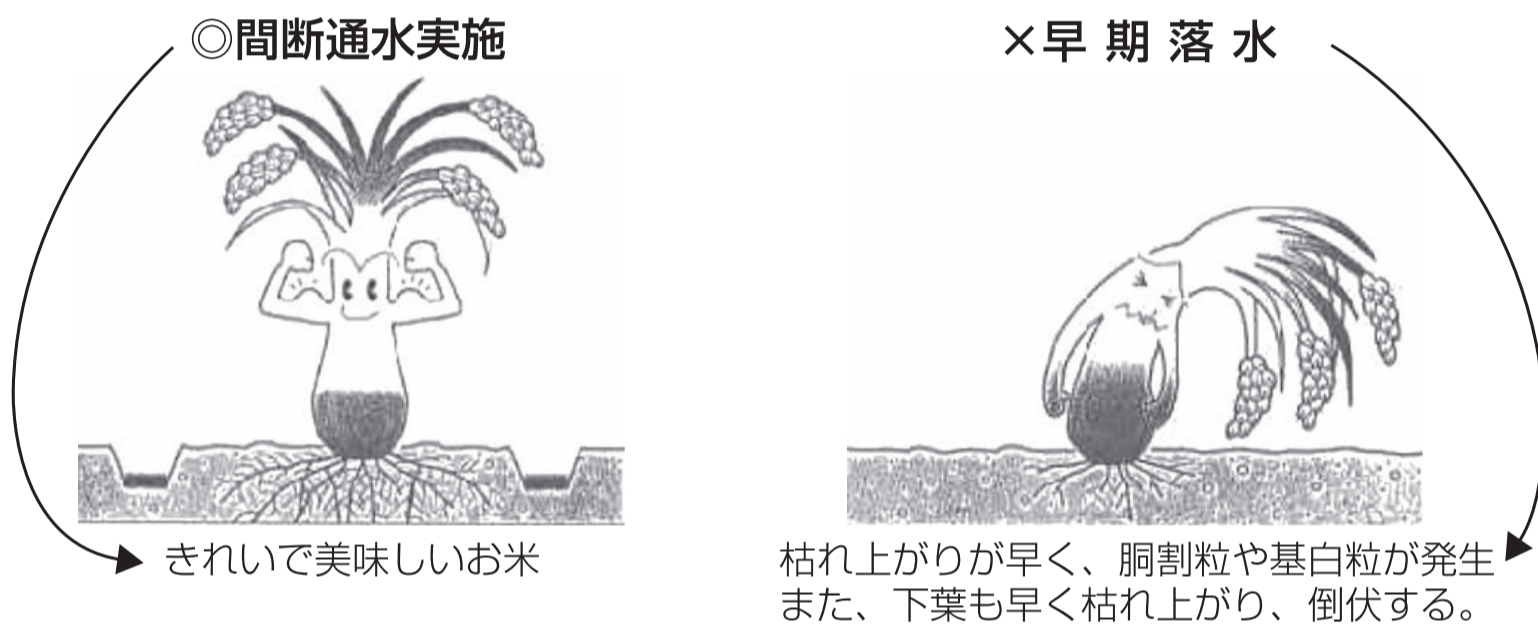
刈取りまでの水管理

1 飽水管理の徹底

- ◎こまめに通水して、常に土壤に水分を与え、乾き過ぎないようにする。
- ・気温の高い日が続くので、日中の湛水を避け、夕方から通水して根の機能低下を防ぐ。
- ・台風やフェーン現象などの強風時には一時的に通水（湛水）し、風がおさまったら速やかに排水する。

2 通水期間の延長 —早すぎる落水は、収量・品質の低下につながります—

刈取りの5日前まで間断通水（飽水管理）を続ける。



刈取り時期の目安

適期収穫に努め、刈遅れによる胴割粒や褐色粒の発生を防ぎましょう。

1 籾の黄化率で判断

- 1 穂の全籾数の80～90%が黄変したとき。
- 高温年：収穫開始80%、収穫適期85%
- 平年：収穫開始85%、収穫適期90%

☆刈取り適期の穂



〈刈取り適期の目安〉
籾の黄化率が85～90%になった頃

2 出穂後の日数での判断

ゆめみづほ	出穂後34～38日程度
コシヒカリ	出穂後37～42日程度

★ 畦畔等の除草は、収穫直前まで行わないこと！ ★
うまい・きれい金沢産米づくり運動実践中！